

ごみ拾い活動を通じて 人と人をつなげたい



特定非営利活動法人グリーンバード 代表 福田 圭祐氏



日本製鉄 コラボそうじ

この日は日本製鉄の
コーポレートカラーである
水色のビブスを着用し、
80人を超える参加者が
渋谷の街をきれいにした。



グリーンバードとは、「きれいな街は、人の心もきれいにする。」をコンセプトに、2002年に東京の原宿・表参道に誕生したNPO法人です。活動内容は、皆お揃いの緑のビブスを着用した街のごみ拾い。ボランティア参加の事前登録や清掃用具の持参は不要で、いつでも誰もが自由に参加できることが特徴です。

一度ごみを拾った人は、街にごみが散乱していることを実感し、グリーンバードの合言葉でもある「ポイ捨てカッコ悪いぜ!」という思いが多くの方の共感を呼び、仲間も増え、今では子どもから大人まで幅広い世代が参加してくれています。現在の年間参加者数は3万3000人。国内外90チームを拠点に活動する、一大プロジェクトに成長しました。例えば姫路チームでは、カヌーやカヤックでどんぶらこしながら川や海のごみを拾ったり、姫路城マラソンで走りながらごみ拾いランをするなど、普段とは目線を変えた工夫で、活動の様子を街の人にアピールしています。

さらに一歩踏み込んで、今までごみ拾いにかかわらなかった人や興味のない人を巻き込むためには、その人たちが好きな分野や時代のトレンドに合った話題と連動させることが必要だと考えています。そこでラグビーワールドカップ2019日本大会では、「ごみ袋でトライプロジェクト」を展開しました。ごみを入れて袋の上下を結びとラグビーボールになるごみ袋をつくり、スタジアム来場者に配布しました。そしてスタジアム周辺に設けたミニトライゾーンというごみ置き場に、ごみでラグビーボールの形になったごみ袋をトライすることを目指しました。ごみ拾いに楽しさを加えることで、子どもも大人も拾い集めたごみ袋を手につれしそうにトライしてくれました。「ごみ袋を記念に持って帰りたいのでごみは出しません」



ごみ袋でトライ！ プロジェクト

ごみのないスタジアムづくりの
実現を目指し、
2019年ラグビーワールドカップ
日本大会の全48試合で
実施した。



川下りカヌーで ごみ拾い

(グリーンバード姫路チーム)

カヌーに乗りながら
トングで川に漂流するごみを
拾い集めた。



福田 圭祐氏

「人生初のトライとなりました！」など、たくさんの方々から声をかけていただき、ごみのないスタジアムづくりの実現に確かな手応えを感じました。

また企業とのコラボごみ拾いにも力を入れています。今年は日本製鉄とも原宿・表参道、渋谷と名古屋で3回実施しました。ごみ拾い後の懇親会では、ボランティア参加者たちが知っているように知らない拾い集めたごみの行方やリサイクル性に優れる鉄についての知識を深めるクイズなどで、有意義なひとときを過ごすことができました。

近々、北九州でも実施予定です。

ごみ拾いで大切なことは、「やらされている」のではなく、主体的に「やってみたい」という気持ちで参加してもらうことです。私たちは常に地域を支えるコミュニティリーダーでありたいと思っています。希薄になりつつある人と人とのつながりを深めてもらい、参加者それぞれの可能性を広げてもらえるとうれしいですね。2020年5月30日のごみゼロの日に20万人のボランティア参加を目指すイベントを企画中です。ぜひご参加をお待ちしています。

(談)